



【指数日足チャート】

▼ハンセン指数



▼上海総合指数



【主要株価指数】

	週末終値	前日比	変化率 (%)	週間騰落率 (%)	年初来騰落率 (%)	17年末株価
NYダウ	25,335.74	440.53	1.77	3.25	2.49	24,719.22
NASDAQ	7,560.81	132.86	1.79	4.17	9.52	6,903.39
日経225	21,469.20	101.13	0.47	1.36	-5.69	22,764.94
上海総合	3,307.17	18.76	0.57	1.62	-0.00	3,307.17
滬深300 (CSI300)	4,108.87	31.26	0.77	2.30	1.94	4,030.86
ハンセン	30,996.21	341.69	1.11	1.35	3.60	29,919.15
中国企業	12,431.20	96.37	0.78	1.86	6.17	11,709.30

【株式概況】

先週の動き:ハンセン指数は1.3%高と反発、上海総合指数は1.6%高

香港市場ではハンセン指数が週間で1.3%高と反発。米国の保護主義的な通商政策への懸念で週初は大きく下落して始まったが、週半ば以降は持ち直す展開となった。中国で全人代が開幕したことを受け、政策期待から本土市場が総じて堅調に推移したことも相場を支えた。本土市場では上海総合指数が週間で1.6%高と反発。中国政府が相場を下支えするとの思惑に加え、強い貿易統計の発表や銀行の貸倒引当金の基準緩和も支援材料となり、上海総合指数は約2週間ぶりに節目の3300ポイント台を回復した。

今週の展望:香港市場は戻りを試す展開か、北朝鮮情勢の緊張緩和でリスクオン

香港市場は戻りを試す展開か。南北首脳会談、米朝首脳会談が開催される方針が決まり、北朝鮮情勢を巡る地政学リスクの緩和が追い風となりそうだ。米雇用統計を巡っても平均時給の鈍化で米利上げペース加速への警戒感が後退し、NY市場ではナスダック総合指数が再び過去最高値を更新するなど外部環境は大きく改善した。今週は14日に中国の主要経済指標の発表を控えるが、大きな波乱なく通過しそうだ。本土市場も戻りを試す展開が見込まれる。全人代の開催中は政府による相場安定への期待も続きそうだ。

先週のハンセン騰落ランキング

▼騰落率上位

順位	銘柄	週末終値 (HK\$)	騰落率 (%)
1	舜宇光学科技 (02382)	143.80	11.73
2	碧桂园 (02007)	14.90	6.89
3	サンズ・ファイブ (01928)	45.25	5.23
4	瑞声科技 (02018)	159.40	5.01
5	吉利汽車 (00175)	25.85	4.02
6	香港鐵路 (00066)	42.70	3.77
7	九龍倉置業地産 (01997)	54.90	3.58
8	中国蒙牛乳業 (02319)	26.25	3.55
9	シパック (00386)	6.40	3.39
10	中国工商銀行 (01398)	6.88	3.15

▼騰落率下位

順位	銘柄	週末終値 (HK\$)	騰落率 (%)
1	ハンセン銀行 (00011)	185.20	-4.98
2	東亜銀行 (00023)	33.40	-2.77
3	ファイブ・ユニコム (00762)	9.74	-2.11
4	Link REIT (00823)	67.45	-1.96
5	中電控股 (00002)	78.15	-1.20
6	新世界発展 (00017)	11.86	-1.00
7	中国旺旺 (00151)	6.32	-0.94
8	長江実業地産 (01113)	67.45	-0.81
9	HSBC (00005)	76.60	-0.78
10	新鴻基地産 (00016)	130.00	-0.76

▼今週の主なイベント

- 3月12日(月)
- 【中国】全国人民代表大会 (~20日)
- 3月14日(水)
- 【中国】小売売上高、鉱工業生産、固定資産投資 (1-2月)

▼今週の期待材料

- ◆2月の中国の貿易統計で米ドル建て輸出が前年同月比45%増加、市場予想を大きく上回る
- ◆9日発表の2月の米雇用統計で平均時給が前年比2.6%増と伸び率鈍化、米利上げ加速懸念が後退
- ◆4月末から5月にかけて南北首脳会談と米朝首脳会談を開催、北朝鮮情勢を巡る地政学リスクが大きく後退

▼今週の懸念材料

- ◆中国の2月の物価統計でCPIが2.9%上昇、約4年ぶりの高水準で金融引き締め懸念が高まる可能性も
- ◆先週の公開市場操作で差し引き2400億円の資金を市場から吸収、3月の吸収額は2700億元に
- ◆米トランプ政権による鉄鋼・アルミの輸入制限、中国の対応次第で貿易戦争への警戒感が強まる可能性も

【今週の材料銘柄】 ☆…ポジティブ ★…ネガティブ ◇…中立

- ☆ 長江和記実業 (00001) : 16日に17年本決算を発表、市場予想は8%増益
- ☆ 越秀地産 (00123) : 2月の不動産販売額が25%増加、販売面積は15%増
- ☆ チャイナ・ユニコム (00762) : 15日に17年本決算を発表、市場予想は純利益6倍
- ☆ 華能新能源 (00958) : 2月の発電量が17%増加、風力発電は16%増
- ☆ 華潤セメント (01313) : 17年本決算は純利益2.7倍、1-3月期は大幅増益の見通し
- ☆ Qテクノロジー (01478) : カメラモジュールの2月の出荷量が11%増加
- ☆ 舜宇光学科技 (02382) : 2月の携帯端末用レンズセットの出荷量が32%増加
- ★ キャセイ・パシフィック (00293) : 14日に17年本決算発表、市場予想は赤字拡大
- ★ 華能国際電力 (00902) : 13日に17年本決算発表、市場予想は73%の大幅減益
- ★ 中広核鉱業 (01164) : 17年本決算はウラン販売価格の下落などで大幅減益の見通し

本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則平 14.1.25」に基づく告知事項>

本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。